

科目名	システム開発演習	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	1年次			
受講条件		開設時期	1 後	教員実務経験対象	有			
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	使用言語：Java データベースとJavaを用いて販売管理システムをチームで開発する。 要件定義から設計、実装、テストといったシステム開発の全工程を体験し、実践的なスキルと開発思考を習得する。 開発演習は4人1組のチームチームで行い、チーム内での進捗確認や問題解決を図りながら開発作業をすすめる。							
授業の一般目標	1) オブジェクト指向でソフトウェア開発を行うことができる。 2) ソフトウェア開発の各工程において、何を行うのか説明することができる。 3) チームの一員として、プロジェクトに貢献することができる。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）	テキスト：Javaシステム開発（インフォテックサーブ）							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	・オブジェクト指向の特徴を説明できる ・要件定義、設計、実装、テストの各工程で何を行うのか説明することができる。							
☑ 思考・判断の観点	・Java言語を使って、DB連携ができるアプリを作成できる ・ユースケース図、シーケンス図を作成できる							
☑ 関心・意欲の観点	・より高性能・高品質なプログラムとなるよう、自ら調査・研究することができる							
☑ 態度の観点	・チームの一員として、プログラム開発に貢献することができる							
☑ 技能・表現の観点	・プログラムをバグなく実装できる。 ・利用するユーザの立場に立って、UIやUXを作成することができる。 ・第三者の立場に立って、仕様書などを記述できる。							
授業計画（全体）								
ソフトウェア開発工程の習得、チーム開発のノウハウの習得、クラス図・シーケンス図の理解、Javaコーディングスキルの習得、単体テスト・結合テスト実装スキルの習得を目指す。 講師からは学生へは最低限のアドバイスのみにとどめ、口出しは行わない。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	開発準備							
7～12	開発準備							
13～18	要件確認							
19～24	要件確認							
25～30	設計							
31～36	設計							
37～42	構築							
43～48	構築							
49～54	テスト							
55～60	テスト							
61～66	振り返り							
67～72	プログラム修正							
73～78	プログラム修正							
79～84	成果発表準備							
85～90	成果発表会							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 チームでオブジェクト指向開発し、仕様書の中身、プレゼン、ソースコードを基に評価								
2 授業態度								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度				○			60	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○	○		○		40	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	両國 理行		実務経験紹介	企業の情報システム部門で開発業務				

科目名	検定対策Ⅰ	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	1年次			
受講条件		開設時期	1 前	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験の合格を目的とする問題演習を行う。							
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる								
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	検定試験対策							
7～12	検定試験対策							
13～18	検定試験対策							
19～24	検定試験対策							
25～30	検定試験対策							
31～36	検定試験対策							
37～42	検定試験対策							
43～48	検定試験対策							
49～54	検定試験対策							
55～60	検定試験対策							
61～66	検定試験対策							
67～72	検定試験対策							
73～78	検定試験対策							
79～84	検定試験対策							
85～90	検定試験対策							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 授業態度								
2 不可となった場合、再試験は実施しない								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	森野 茂弘		実務経験紹介	・企業の情報システム部門で開発業務				

科目名	検定対策Ⅱ	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	1年次			
受講条件		開設時期	1 後	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。							
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる								
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	検定試験対策							
7～12	検定試験対策							
13～18	検定試験対策							
19～24	検定試験対策							
25～30	検定試験対策							
31～36	検定試験対策							
37～42	検定試験対策							
43～48	検定試験対策							
49～54	検定試験対策							
55～60	検定試験対策							
61～66	検定試験対策							
67～72	検定試験対策							
73～78	検定試験対策							
79～84	検定試験対策							
85～90	検定試験対策							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 授業態度								
2 不可となった場合、再試験は実施しない								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	森野 茂弘		実務経験紹介	・企業の情報システム部門で開発業務				

科目名	プログラミング言語Ⅲ	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2年次			
受講条件		開設時期	2 前	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標と する資格・検定 等)	使用言語：C# もしくはVisual BASIC C# もしくはVisual BASICのいずれかの習得を行う。プログラミング言語Ⅰの経験を基に、自ら言語仕様を調べ、新しいプログラム する資格・検定 等)の言語を独学する練習を行う。GUIアプリの開発だけでなく、ODBC経由でDBMSに接続する方法やソケット通信の方法も独学練習す る。							
授業の一般目標	1) 新しいプログラミング言語を独学できる。 2) Windows上で動作するGUIアプリを開発することができる。 3) ODBC経由でDBMSに接続できる。 4) ソケットを用いたクライアント、サーバー側のアプリを実装できる。							
受講条件								
事前学習につい て（テキスト・ 参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・ GUIアプリケーションのイベント駆動型モデルの仕組みを理解している。								
☑ 思考・判断の観点 ・ 目的に合わせ、公式リファレンス等から必要なライブラリやメソッドを自ら選択・判断できる。 ・ ユーザーの利便性を考慮したGUIの配置や、効率的なデータ通信の手順を設計・判断できる								
☑ 関心・意欲の観点 ・ 最新の技術動向や公式ドキュメント（MSDN等）、専門書籍を自発的に確認し、知識をアップデートできる。								
☑ 態度の観点 ・ 未知の技術要素に対しても、教員に頼り切るのではなく、まずは自ら調査・検証（独学練習）を試みることができる。								
☑ 技能・表現の観点 ・ C# または Visual BASIC を用いて、実用的なGUIアプリケーションを作成できる。 ・ ODBC経由でDBMSに接続し、データの取得・追加・更新・削除を行うプログラムを実装できる。 ・ ソケット通信を用いて、サーバとクライアント間でデータの送受信を行うプログラムを実装できる。								
授業計画（全体）								
この授業では若年者ものづくり競技大会業務用ITソフトウェアソリューションズ職種の過去問を用いて、ビジネスアプリの設計開発を行う。 要件定義書・仕様書・設計書の作成だけでなく、画面設計書としてビジネスロジック部分を除いたGUIアプリの実装（C#またはVBを使用）を行う。 業務要件を実現するためにDB接続やソケット通信が必要な場合は手順書の作成を行う。 この授業で作成した要件定義書・仕様書・設計書は後期のアプリ開発演習Ⅰで使用する。 この授業では、専門書籍や公式リファレンス等を活用して未知の技術を独学する能力を養う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等	授業の記録			
1～6	第1回課題の発表。設計演習							
7～12	設計演習							
13～18	設計演習							
19～24	設計演習							
25～30	設計演習							
31～36	第1回課題のプレゼンテーション							
37～42	第2回課題の発表。設計演習							
43～48	設計演習							
49～54	設計演習							
55～60	設計演習							
61～66	第2回課題のプレゼンテーション							
67～72	第3回課題の発表。設計演習							
73～78	設計演習							
79～84	設計演習							
85～90	第3回課題のプレゼンテーション							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 発表・作品								
2 授業態度								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度				○	○		30	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○	○	○	○		70	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	両国 理行			実務経験紹介	・ 企業の情報システム部門で開発業務			

科目名	検定対策Ⅲ	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2年次			
受講条件		開設時期	2 前	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。							
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる								
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	検定試験対策							
7～12	検定試験対策							
13～18	検定試験対策							
19～24	検定試験対策							
25～30	検定試験対策							
31～36	検定試験対策							
37～42	検定試験対策							
43～48	検定試験対策							
49～54	検定試験対策							
55～60	検定試験対策							
61～66	検定試験対策							
67～72	検定試験対策							
73～78	検定試験対策							
79～84	検定試験対策							
85～90	検定試験対策							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 授業態度								
2 不可となった場合、再試験は実施しない								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	森野 茂弘		実務経験紹介	・企業の情報システム部門で開発業務				

科目名	検定対策Ⅳ	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2年次			
受講条件		開設時期	2 後	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。							
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる								
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画（全体）								
この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	検定試験対策							
7～12	検定試験対策							
13～18	検定試験対策							
19～24	検定試験対策							
25～30	検定試験対策							
31～36	検定試験対策							
37～42	検定試験対策							
43～48	検定試験対策							
49～54	検定試験対策							
55～60	検定試験対策							
61～66	検定試験対策							
67～72	検定試験対策							
73～78	検定試験対策							
79～84	検定試験対策							
85～90	検定試験対策							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 授業態度								
2 不可となった場合、再試験は実施しない								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	森野 茂弘		実務経験紹介			・企業の情報システム部門で開発業務		

科目名	プロジェクトマネジメント		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		時間数	60	開設期	3年次		
受講条件			開設時期	3 前	教員実務経験対象	有		
授業概要（目的・目標とする資格・検定等）	PMBOKを基にプロジェクトマネジメントの考え方を理解し、プロジェクトマネジメントで使用する標準的な用語を用いて、プロジェクト内でのコミュニケーションが取れるようにする。							
授業の一般目標	1) PMBOK第7版とそれ以前の版の違いを説明できる。 2) プロジェクトのメンバーとして、他のメンバーと協働することができる。 3) 成果に焦点を与えたマネジメントを実施できる。 4) プロジェクトの価値の最大化に取り組むことができる。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	テキスト：担当になったら知っておきたい「プロジェクトマネジメント」実践講座							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 ・プロジェクトマネジメントの重要性と役割を説明できる。 ・PMBOKに基づく知識エリアとプロセス群を理解し、説明できる。								
☒ 思考・判断の観点 ・プロジェクト内での報告・連絡・相談が適切に行える。								
☒ 関心・意欲の観点 ・プロジェクト成功のための手法や実例に主体的な関心を持って学ぶことができる。								
☒ 態度の観点 ・チーム内で協調し、責任を持って課題に取り組むことができる。								
☒ 技能・表現の観点 ・プロジェクトに必要な成果物（WBS、スケジュール、リスク計画など）を作成できる。 ・小規模なプロジェクトの計画書を作成し、発表できる								
授業計画（全体）								
PMBOKに基づき、プロジェクトの計画、実行、監視、終結までを15回に分けて学習。WBS作成、リスク管理、チーム内連携など実践を通じて習得し、最終的に成果を発表する。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～4	プロジェクトマネジメントの基本							
5～8	PMBOK概要とプロジェクトマネジメントの枠組							
9～12	プロジェクト統合マネジメント							
13～16	スコープマネジメントとWBS作成							
17～20	スケジュールマネジメント（ガントチャート作成）							
21～24	コストマネジメントと見積もり手法							
25～28	品質・資源マネジメント							
29～32	コミュニケーションとステークホルダーマネジメント							
33～36	リスクマネジメント（リスク特定・分析）							
37～40	調達マネジメントと契約管理							
41～44	チームビルディングとコンフリクトマネジメント							
45～48	成果物レビュー・プレゼン準備							
49～52	成果物レビュー・プレゼン準備							
53～56	プレゼンテーション（グループ発表）							
57～60	プレゼンテーション（グループ発表）							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 提出物（プロジェクト成果物）								
2 授業態度								
3 プレゼンテーション								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○			60	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○			○		40	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	中村 誠			実務経験紹介	・企業での情報システム部門、ITコンサルタント http://www.shonanwind.com/profile.html			

科目名	I Tゼミナール		単位数	9	科目コード			
授業形態	講義		時間数	270	開設期	3年次		
受講条件			開設時期	3 前	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	AI、IoT、ロボット制御などの先端技術を、各教員の専門に応じてゼミ形式で学び、実践的な演習を通じて理解を深める。技術の背景理解からアプリ開発までを目指す。							
授業の一般目標	1) 先端技術の原理・背景・現状を説明できる。 2) 学んだ技術を応用し、簡単なアプリやシステムを実装できる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・先端技術（AI・IoT・ロボット等）の基本概念や仕組みを理解し、特徴や用途を説明できる。								
☑ 思考・判断の観点 ・課題に応じて適切な技術や手法を選択し、システム設計に反映できる。								
☑ 関心・意欲の観点 ・新しい技術への興味を持ち、自発的に調査・実験・発表に取り組む姿勢を持てる。								
☑ 態度の観点 ・ゼミ活動に主体的に参加し、他者と協力して学び合う姿勢を持ち続けられる。								
☑ 技能・表現の観点 ・先端技術を用いたアプリやシステムを実装し、成果をわかりやすく発表できる。								
授業計画（全体）								
複数教員によるゼミ形式で、AI・IoT・ロボット制御などの先端技術を分担して指導する。技術の背景理解、基本実装、応用演習を段階的に行い、最後に成果物の発表を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～18	【導入・共通講義】先端技術概論、AI・IoT・ロボットの概要と社会的意義							
19～36	【AI①】機械学習の基礎（教師あり・なし学習、分類と回帰）							
37～54	【AI②】画像認識入門（OpenCV+TensorFlow）							
55～72	【AI③】自然言語処理（チャットボット、文章分類）							
73～90	【IoT①】IoTの構成と基礎知識、センサーデバイスの種類と使用法							
91～108	【IoT②】マイコン制御（Arduino/ESP32）+センサーデータ取得演習							
109～126	【IoT③】ネットワーク連携（MQTT/HTTP）+クラウドにデータ送信し可視化							
127～144	【ロボット①】ロボット制御の基礎（モーター制御・センサー入力）							
145～162	【ロボット②】ライントレース制御、フィードバック制御の基礎演習							
163～180	【ロボット③】複数センサーを用いた自律動作プログラミング							
181～198	【応用①】自由課題の選定とグループ分け、要件定義と設計							
199～216	【応用②】システム開発（中間レビュー）、実装フェーズ							
217～234	【応用③】システム開発の続き、完成に向けた調整と改善							
235～252	【成果発表準備】資料作成、発表練習、動作確認							
253～270	【最終発表会】プロジェクト発表・デモ+講評・振り返り							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 提出物（成果物）								
2 授業態度								
3 成果発表・プレゼンテーション								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		20	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○			○		80	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	中村 誠			実務経験紹介	・企業での情報システム部門、ITコンサルタント http://www.shonanwind.com/profile.html			

[illegible]

[illegible]

科目名	パーソナルスキルⅤ	単位数	2	科目コード				
授業形態	演習	時間数	60	開設期	3年次			
受講条件		開設時期	3 前	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人として他の模範となる個人的なスキルを身に付ける							
授業の一般目標	1) 学んだ内容を整理し、分かりやすいスライド資料としてまとめることができる。 2) 聴衆を意識して、論理的かつ明瞭な発表をすることができる。 3) 誤解のないビジネス文章を作成できる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：ＩＴの仕事に就いたら「最低限」知っておきたい最新の常識							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・社会人として必要なビジネスマナー、言葉遣い、報連相などの基本常識を体系的に理解し、実践することができる。								
☑ 思考・判断の観点 ・状況に応じた適切な対応や表現方法を選ぶことができる。								
☑ 関心・意欲の観点 ・自らの力不足を素直に認め、立派な社会人になるための努力をすることができる。								
☑ 態度の観点 ・常に謙虚な姿勢で学び、周囲と協調しながら誠実に行動できる。								
☑ 技能・表現の観点 ・誤解のないビジネス文章や分かりやすいスライド資料を作ることができる。								
授業計画（全体）								
テキストなどの教材に書かれている内容を学生が分担して輪番発表する。発表時間は一人3分程度。質疑応答最大10分。発表資料を作成する際、どんな質問にも対応できるよう入念に準備を行う。教員、他の学生からダメだし・修正案件が生じた場合は直ちに修正を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	輪読やり方、ジグソー法について							
5～8	輪番発表資料作成							
9～12	輪番発表資料作成							
13～16	輪番発表資料作成							
17～20	輪番発表資料作成							
21～24	輪番発表							
25～28	輪番発表							
29～32	輪番発表資料作成							
33～36	輪番発表資料作成							
37～40	輪番発表							
41～44	輪番発表							
45～48	輪番発表資料作成							
49～52	輪番発表資料作成							
53～56	輪番発表							
57～60	輪番発表							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 提出物								
2 授業態度								
3 プレゼンテーション								
4 質疑応答の適切さ								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、Ｓ（４）：９０点以上
小テスト							評価なし	優、Ａ（３）：８０点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、Ｂ（２）：７０点以上
授業態度			○	○			60	可、Ｃ（１）：６０点以上
発表・作品	○	○	○	○	○		40	不可、Ｅ（０）：５９点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、Ｆ
出席							欠格条件	（ ）内はＧＰＡ点数
担当教員	両国 理行		実務経験紹介			・企業の情報システム部門で開発業務		

科目名	パーソナルスキルⅥ	単位数	1	科目コード				
授業形態	演習	時間数	30	開設期	3年次			
受講条件		開設時期	3 後	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人としてスタートするに必要な一般的な個人的なスキルを身に付ける。							
授業の一般目標	1) 学んだ内容を整理し、分かりやすいスライド資料としてまとめることができる。 2) 聴衆を意識して、論理的かつ明瞭な発表をすることができる。 3) 誤解のないビジネス文章を作成できる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：ＩＴの仕事に就いたら「最低限」知っておきたい最新の常識							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・社会人として必要なビジネスマナー、言葉遣い、報連相などの基本常識を体系的に理解し、実践することができる。								
☑ 思考・判断の観点 ・状況に応じた適切な対応や表現方法を選ぶことができる。								
☑ 関心・意欲の観点 ・自らの力不足を素直に認め、立派な社会人になるための努力をすることができる。								
☑ 態度の観点 ・常に謙虚な姿勢で学び、周囲と協調しながら誠実に行動できる。								
☑ 技能・表現の観点 ・誤解のないビジネス文章や分かりやすいスライド資料を作ることができる。								
授業計画（全体）								
テキストなどの教材に書かれている内容を学生が分担して輪番発表する。発表時間は一人3分程度。質疑応答最大10分。 発表資料を作成する際、どんな質問にも対応できるよう入念に準備を行う。教員、他の学生からダメだし・修正案件が生じた場合は直ちに修正を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～2	輪番発表資料作成							
3～4	輪番発表資料作成							
5～6	輪番発表							
7～8	輪番発表							
9～10	輪番発表資料作成							
11～12	輪番発表資料作成							
13～14	輪番発表							
15～16	輪番発表							
17～18	輪番発表資料作成							
19～20	輪番発表資料作成							
21～22	輪番発表							
23～24	輪番発表							
25～26	輪番発表資料作成							
27～28	輪番発表							
29～30	輪番発表							
授業外学習の指示								
1 授業進捗箇所を問題集で解く。また、国家試験の過去問をくり返し解くこと								
2								
3								
4								
成績評価方法								
1 提出物								
2 授業態度								
3 プレゼンテーション								
4 質疑応答の適切さ								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			○	○			60	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○	○	○	○		40	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	両国 理行		実務経験紹介			・企業の情報システム部門で開発業務		